



岡山市区づくり推進事業助成申込書
(地域活動部門)

平成28年 1月 20日

岡山市長 大 森 雅 夫 様

フリガナ スミタマチ ハカックラ ツクリタイ

団体名住みたいまち幡多学区を創り隊

所在地

連絡先

フリガナ

代表者氏名

※ 提出した申込書の内容が、岡山市のホームページ上で公開されることに同意します。
ただし、個人情報に関する部分は除きます。

応募分野	(該当の分野を○で囲んでください。) ☒ ア 地域課題解決 ☒ イ 地域課題掘り起し ☐ ウ 地域計画づくり ☒ エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名称	住みたいまち幡多学区を創り隊
事業実施区域(小学校区)	幡多小学校
事業実施回数	☒ 新規 ☐ 継続 回目 (年度から)
課題	・ 学区の運営スタッフが高齢化して、世代交代ができていない(70歳以上中心) ・ 若手(40代~50代)が学区や町内の行事に対し消極的で、特に運営には関わりたくないと思う人が多い。 ・ 隣近所の交流が希薄になっている。家庭も核家族化し三世代での交流が少ない。 ・ 発達障害など障害があることをオープンにしにくい、まだ理解者が少ない ・ 小学校の情報や、学区内の情報をいち早く伝える手段がない。
事業の目的・目標	・ 若い世代(4,50代)が中心となって学区や、町内の活動を行う体制を作る(同志を募る) ・ 各町内で行っている行事の中で類似した行事を共有し、一緒になって問題解決できる場をつくる。 ・ 学区や町内での問題や、こんなこと出来たらいいな、という意見を反映し、即行動に移し、解決の糸口を見つける。 ・ 子供も、大人も、高齢者も、障害者も、みんなが楽しく企画運営したり、参加してもらえる行事を増やしていく。

事業の内容	1) 組織・体制をつくる ・若い世代が活躍できる組織・体制を拡大していく （人材を確保したい。同じ思いの同志を募っていききたい。） 2) 学区内で行われている行事で見直しを図りたい行事や、解決したい問題で具体的な改善案（アイデア）を試行し、解決の糸口を見つける（各プロジェクトを立ち上げ、実践する） ① 赤田夏祭りプロジェクト（子どもたちの活躍できる場をつくりたい） 中高生で運営するブースを設け、小学生以下の子どもたちが楽しめるイベントを行う ② 高屋パークフェスティバルプロジェクト（三世代交流をもっと活性化したい） 老人会と、子供会のコラボで、小学生以下の子どもと老人会の方とで楽しめる「高屋クエスト」（宝探し）を行う ③ 発達障害の理解者増強プロジェクト （当事者と、どう関わればいいかわからない。理解者を増やしたい） 学区としてまだ取り組んでいない問題をここで取り組み、小中学校での子供たちの現状や、地域としての対応など、障害に対しての理解を深め、支援者を増やしていく活動を行う（講演会、映画会、勉強会など） ④ 情報発信・共有化プロジェクト （知りたい情報を、伝えたい情報をいち早く受発信したい） 小学校の保護者に対して学校では一斉メールなどいち早く情報を伝えているが例えば老人会が行ってくださっている登下校子供見守り隊に下校時刻の変更やたっていただく箇所の変更なども名簿を頼りに電話連絡しか伝える手段がないメール配信等の利便性や、必要性を仕組みを作り実際に使っていただくことで学区全体で使用する必要性があるか検証していく。 また、電子町内会、電子マップを活用し、学区の情報を早く、広く伝える活動をする。
期待される成果	・若い世代が活躍できる場ができる ・思いを行動に移すことで、いち早く解決の糸口を見つけられる ・障害者、支援者への認知と理解が広がる。 ・町内間でよいこと、悪いことが共有できる。 ・学区の情報を素早く必要な人に発信できる。

企画などの工夫	・ 運営するほうが、楽しく・得をしたと思える会にする ・ 子どもたちだけで企画・運営するイベントを実施する ・ 縦割りの組織を横のつながり（各種団体をコラボ、各町内会で共有）で活動する
事業の情報公開	① 電子町内会を通じて発信する。 ② Facebook など SNS から発信する
次年度以降の予定	①次年度以後の活動計画 ・ 各町内会、各種団体に働きかけ、横展開していく。 ・ 未就園児をもつ保護者が子育てしやすい環境づくりや、中高校生が活躍する場をつくる ②資金の確保について ■次年度も区づくり推進事業を申請する予定 ■（ 10 ）年後には、自己資金を確保して地域の独自展開をしていきたい。 ○資金確保の具体的な方策：町内会費からの捻出、参加費、参加団体企業からの寄付
その他PRしたい点	・ 今活躍してくださっている方の思いや、意思を、次へ受け続けることのできる仕組みが出来上がると考えている。

収 支 予 算 書

◆ 収 入

単位:円

項 目	前年度決算	予 算	備 考
岡山市補助金		608,000	(100円未満の端数切捨て)
実施団体負担金		0	
参加者負担金		30,000	映画上映参加費
協賛金		122,000	各町内会など
寄付、他収入		0	
計		760,000	

◆ 支 出

単位:円

項 目	前年度決算	予 算	備 考
会場費		0	
講師料及び交通費		150,000	講師謝礼、交通費等
借り上げ料		110,000	フィルム9万 暖房器具2万円
通信費		10,000	封筒、切手
消耗品費		20,000	
印刷製本費		70,000	チラシ、パンフレット等
開発委託費		200,000	メール一斉配信ソフト制作
赤田夏祭りイベント費		80,000	別紙参照
高屋パークフェスティバル費		80,000	別紙参照
雑費		40,000	茶代、託児謝礼、等
計		760,000	

◆ 概算交付の可否(いずれかに○をしてください)。(補助金額が20万円を超える場合のみ)

補助金の概算払いを	希望する	希望しない
-----------	------	-------

※「希望する」場合は、その理由を具体的にお書きください

上記運営予算の立替えができないため

注①：前年度決算額が確定してない場合は、見込み額を記入してください。

注②：支出の費目は、消耗品費・食糧費・印刷製本費・旅費交通費・通信運搬費・謝礼金・会場使用料・保険料など適当な費目に分けて記入し、備考に積算内訳を記載してください。

※記入欄に書ききれないときは、別紙として添付してください。

事業スケジュール (企画会議や反省会も含めてご記入ください。日程が未定の場合は月だけで結構です。)

月日	活動内容
4月	キックオフ会議(事業内容確認、計画立案)、プロジェクトメンバー選出 ④情報発信・共有化プロジェクト(電子町内会、マップ活用法勉強会)
5月	連合町内会の総会にて活動報告、定例会議(プロジェクト毎打ち合わせ) ④情報発信・共有化プロジェクト(小学校のSOSマップと運動)
6月	定例会議(プロジェクト毎の打ち合わせ) ③発達障害理解者増強プロジェクトⅠ(勉強会) ④情報発信・共有化プロジェクト(一斉メール配信ソフト作成)
7月	定例会議(プロジェクト毎の打ち合わせ) ③発達障害理解者増強プロジェクトⅠ(勉強会) ④情報発信・共有化プロジェクト(一斉メール配信ソフト運用)
8月	定例会議(プロジェクト毎の打ち合わせ) ①赤田夏祭りプロジェクト実施
9月	定例会議(プロジェクト毎の打ち合わせ) ②高屋パークフェスティバルプロジェクト実施 ③発達障害理解者増強プロジェクトⅠ(勉強会)
10月	定例会議(プロジェクト毎の打ち合わせ) ①②プロジェクトの反省と次回への取り組み検討 ③発達障害理解者増強プロジェクトⅠ(勉強会)
11月	定例会議(プロジェクト毎の打ち合わせ) ③発達障害理解者増強プロジェクトⅠ(講演会)
12月	定例会議(プロジェクト毎の打ち合わせ) 親睦会、学区内情報交換会
1月	定例会議(プロジェクト毎の打ち合わせ) ③発達障害理解者増強プロジェクトⅠ(勉強会及び映画会準備)
2月	定例会議(プロジェクト毎の打ち合わせ) ③発達障害理解者増強プロジェクトⅠ(映画上映会)
3月	全体の反省、次年度の取り組み検討